

## 2021/2022 スピードスケート国際競技会派遣選手選考基準

ワールドカップにおける実施種目や日本の出場枠に関連したルールなど、詳細は国際スケート連盟 (ISU) によって後日通知される予定である (8月頃)。これを受けて、本選考基準のうち ISU から通知されるルールに適合しない部分に変更される場合がある。

### 【決定の方法】

国際競技会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、強化部委員会が推薦し、選考委員会又は理事会で承認することによって決定する。

### 【派遣選手団の編成方針】

1. 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
2. 日本代表として十分な活躍が期待できる種目を優先的に選考する。
3. 行動規範を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

### 【出場に関する制限】

1. 国際スケート連盟 (ISU) によって以下の通り制限される。
  - ・ 各国際競技会への日本の各種目出場枠数
  - ・ 世界スピードスケート選手権大会 (オールラウンド及びスプリント総合選手権) 特別参加資格ランキングリスト (SQRL for WAR 及び SQRL for WSP)
  - ・ 四大陸スピードスケート選手権大会特別参加資格ランキングリスト (SQRL for 4CC)
  - ・ 各国際競技会の参加標準記録 (後述)
  - ・ 新型コロナウイルス (COVID-19) に関連する国や関係団体からの制限
2. 日本スケート連盟による派遣標準記録 (後述) を設定し、派遣 B 標準記録以内の選手を派遣対象とする。

### 【特記事項】

- ・ 各国際競技会において、日本の種目出場枠に空きが生じている場合、当該派遣選手団の監督の責任の下、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を追加でエントリーすることができる。この場合、当該種目の派遣標準記録以内であるかどうかは問わない。
- ・ 各種目 (マススタート、チームパシュートを除く) の補欠は、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考する。
- ・ ISU の参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。
- ・ 各国際競技会への派遣選手選考において、対象競技会にエントリーしている強化部委員がいた場合は、これを強化部委員会のメンバーから除外し、選考を行う。
- ・ 本選考基準において、JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議による選考を定めている場合において意見の一致に至らなかった場合は、多数決の方法をもって

決する。また、ここでの選考は、強化部委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。

- 代表選手の決定後、ケガや病気などによって大会への参加が困難だと判断された場合は、選考時点のJOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、派遣リザーブリスト（後述）に登録をされた選手と入れ替える場合がある。その場合、強化スタッフに登録されたスポーツドクターの診断・見解を参考に検討する。
- 選考対象者が、新型コロナウイルス（COVID-19）による影響（感染や偽陽性判定、濃厚接触者認定、熱発による感染疑い、国際的な移動に伴う規制等による隔離や行動制限）により、本選考基準による適正な選考が著しく妨げられたと認められた場合は、強化部委員会の協議によって、下記選考基準の関連する部分は変更される場合がある。

- ワールドカップ第1戦トマショフマゾウイエツキ大会（11/12～14、500m・1000m・1500m・女子3000m・男子5000m・Ms・TP）・第2戦スタヴァンゲル大会（11/19～21、500m・1000m・1500m・女子5000m・男子10000m・TS）・第3戦ソルトレークシティー大会（12/3～5、500m・1000m・1500m・女子3000m・男子5000m・Ms・TP）・第4戦カルガリー大会（12/10～12、500m・1000m・1500m・女子3000m・男子5000m・Ms・TP）

※ Ms（マススタート）、TP（チームパシュート）、TS（チームスプリント）

※ 男女500mは、第1～4戦のすべてにおいてそれぞれ2本実施

#### 【選考方針】

北京冬季オリンピックにおける日本の出場枠拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

#### 【派遣可能人数】

制限なし

#### 【枠数】

男子：500m（5）、1000m（5）、1500m（5）、5000m（5）、10000m（5）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）

女子：500m（5）、1000m（5）、1500m（5）、3000m（5）、5000m（5）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）

#### 【選考基準】

対象競技会：第28回全日本スピードスケート距離別選手権大会

※ 選考は、距離別部門のみを対象とする。

- 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m及び男子5000mの出場枠のうちそれぞれ4名の派遣選手は、対象競技会における当該種目の順位に従い、最上位者から順に選考する。残りの派遣選手は、選考時点のJOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、対象競技会にエントリーしている選手の中から、対象競技会の順位や前年度及び今年度の競技成績を考慮し、選考方針を踏まえた総合的な検討によって枠数に至るまで選考する。
- 女子5000m及び男子10000mの出場枠のうち、それぞれ4名の派遣選手は、女子3000mまたは男子5000mの最上位者から順に選考する（ここで選考された選手は、女子5000m及び男子10000mの派遣標準記録の達成可否を問わず当該種目に選考する）。残りの派遣選手は、すでに

選考された者を除く選手の中で、女子 5000m 及び男子 10000m における最上位者から順に選考する。

- (3) 男女チームパシュートの正選手各 3 名と補欠選手各 1 名は、対象競技会にエントリーしている選手の中から、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手 1 名を補欠に加えることができる（この場合の補欠の優先順位は 2 番目とする）。
- (4) 男女マスタートの正選手各 2 名（枠順位 1 及び 2 番目）と補欠選手各 1 名は、対象競技会にエントリーしている選手の中から、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。
- (5) 男女チームスプリントは、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (6) 当該派遣選手団の選考に至らなかった次点者を、男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男女 5000m 及び男子 10000m についてはそれぞれの種目において男女各 2 名、男女マスタート及び男女チームパシュートについては 2 種目合わせて男女各 3 名、派遣リザーブリスト登録者として選考する場合がある。
- (7) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

#### 【特記事項】

- ・ ワールドカップ第 1 戦における各種目のエントリー順は、ISU ワールドカップ参加標準記録（後述）の達成を示すための、エントリー時に所持している記録順によるものとする。
- ・ ワールドカップ第 3 戦及び第 4 戦の男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男子 5000m については、上記（1）により選考された選手が、ワールドカップ第 2 戦終了時の SOQC（後述の「第 24 回オリンピック冬季競技大会（2022／北京）日本代表選手選考基準」参照）に記載される成績（リザーブリストを含む）を残せなかった場合、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議による必要性の判断に応じて、当該種目の補欠又は派遣リザーブリスト登録者とで入れ替えを行う場合がある。
- ・ 各ワールドカップの男女チームパシュートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況などを総合的に検討し、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、必要に応じて行うものとする。
- ・ 本競技会（第 1～4 戦まで）は、第 24 回オリンピック冬季競技大会（2022／北京）、当該年度の世界スピードスケート選手権大会（オールラウンド及びスプリント総合選手権）及び四大陸スピードスケート選手権大会の出場枠獲得対象競技会となる。

## 2. 四大陸スピードスケート選手権大会（1/28～30、日本・帯広、500m・1000m・1500m・女子 3000m・男子 5000m・Ms・TP・TS）

#### 【選考方針】

四大陸スピードスケート選手権大会で日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

**【派遣可能人数】**

制限なし

**【枠数】**

ワールドカップ第1～4戦までのランキング（SQRL for 4CC）により、以下の国別最大枠数が割り振られる。

男子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、5000m（3）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）

女子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、3000m（3）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）

**【選考基準】**

対象競技会：北京オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

- (1) 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mでの日本が獲得した出場枠数（2021年12月中旬頃にISUから通知される予定）において、3枠のときは2名、2枠のときは1名、1枠のときは1名の派遣選手の選考は、ワールドカップ第4戦終了時における当該種目のワールドカップ競技力（以下同様に、後述の「第24回オリンピック冬季競技大会（2022／北京）日本代表選手選考基準」参照）が8位以内の場合、このワールドカップ競技力最上位者から順に選考する。残りの出場枠は、北京オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会における当該種目の順位に従い、最上位者から順に枠数に至るまで選考する。
- (2) 男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名は、当該年度にワールドカップに選考又は派遣（個人種目含む）された選手（派遣リザーブリスト登録者として選考された者を含む）、又は四大陸選手権大会に別の種目で選考された選手の中から、選考時点のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、ワールドカップ第1～4戦における成績や本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。
- (3) 男女マススタートの派遣選手は、出場枠が1名だった場合、又は出場枠が2名だった場合の1名は、ワールドカップ第4戦終了時におけるワールドカップ競技力の最上位者を選考する。ここで選考に至らなかった場合を含めた残りの正選手（2名又は1名）および補欠1名は、四大陸選手権大会に別の種目で選考された選手の中から出場可能な選手を、選考時点のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。
- (4) 男女チームスプリントは、選考時点のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (5) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

**【特記事項】**

- ・ 男女チームパシュート及びチームスプリントにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、本競技会へ向けての練習状況などを総合的に検討し、選考時点のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、必要に応じて行うものとする。

3. 世界大学スピードスケート選手権大会（3/2～5、アメリカ・レークプラシッド、500m～10000m・Ms・TP・TS）

【選考方針】

世界大学スピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待でき、将来オリンピック等国際大会でメダルが期待できる大学生選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

男女各 2 名

【枠数】

男子：500m（4）、1000m（4）、1500m（4）、5000m（3）、10000m（3）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）

女子：500m（4）、1000m（4）、1500m（4）、3000m（3）、5000m（3）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）

【選考基準】

対象選手は、世界大学スピードスケート選手権大会への参加資格を有する現役大学生とする。

対象競技会：北京オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

- (1) 北京冬季オリンピック日本代表選手（最大で男女それぞれ 7 名、8 名又は 9 名）に続く競技力を有すると判断される者を選考する。すなわち、第 24 回オリンピック冬季競技大会（2022／北京）日本代表選手選考基準（後述）において、北京冬季オリンピック日本代表選手選出後、本競技会の派遣可能人数に至るまで、引き続き同基準（4）の手順に従って選考する。
- (2) 上述の手順で派遣可能人数に至らなかった場合は、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、対象競技会における各種目の順位を比較し、本競技会での活躍を前提とした選手団構成についての総合的な検討を加えながら、選考する。
- (3) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ エントリー種目は、選考された選手の特性等を検討し、当該派遣選手団の監督が決定する。
- ・ 北京冬季オリンピック（派遣リザーブリスト登録者を除く）又は世界オールラウンド・スプリントスピードスケート選手権大会の日本代表選手となった者は、本競技会の代表選手には選考しない。
- ・ 本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣標準記録は適用しない。

4. 世界オールラウンド・スプリントスピードスケート選手権大会（3/3～6、ノルウェー・ハーマル）

【選考方針】

世界オールラウンド・スプリントスピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

オールラウンド総合：男女各最大 3 名

スプリント総合：男女各最大 3 名

※ ワールドカップ第 1～4 戦の成績により、男女ともに最大 3 名までの出場枠が付与される。枠

の付与は、オールラウンドでは 1500m と女子は 3000m・男子は 5000m のタイムの合計ポイント、スプリントでは 500m と 1000m (いずれもタイムの良い 1 本) のタイムの合計ポイントを算出し、それぞれその順位 (SQRL for WAR、SQRL for WSP) に基づいて決定される。

#### 【選考基準】

対象競技会：北京オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

- (1) それぞれの出場枠のうち 1 名の派遣選手は、ワールドカップ第 1～4 戦の成績で決定されるランキングリスト (SQRL for WAR、SQRL for WSP) の最上位者を選考する。
- (2) 残りの派遣選手は、対象競技会における、オールラウンドでは 1500m と女子は 3000m・男子は 5000m のタイムの合計ポイント、スプリントでは 500m と 1000m のタイムの合計ポイントを算出し (ISU ルール第 265 条 3 項に従う)、それぞれその最上位者から順に、枠数に至るまで選考する
- (3) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

#### 【特記事項】

- ・ 本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣標準記録は適用しない。

#### 5. ワールドカップ第 5 戦 (最終戦) オランダ大会 (3/12～13、オランダ・場所未定、500m・1000m・1500m・女子 3000m・男子 5000m・Ms・MixG)

※ MixG (ミックスジェンダーリレー)

※ 男女 500m はそれぞれ 2 本実施

#### 【選考方針】

ワールドカップ第 5 戦で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

#### 【派遣可能人数】

制限なし

#### 【枠数】

ワールドカップ第 1～4 戦までのポイントランキングにより、各種目は以下の通り滑走可能選手数が制限される。 ※今年度のルールは未定 (下記は一昨年度のルール)。

- ・ 500m、1000m、1500m、女子 3000m 及び男子 5000m は最大 12 名 (24 位以内がそれぞれエントリー可能)
- ・ Ms は最大 18 名 (30 位以内がエントリー可能)

#### 【選考基準】

- (1) 個人種目の各出場枠の派遣選手は、滑走可能選手数に相当するワールドカップポイントランキング (500m～5000m は 12 位、Ms は 18 位) 以内の選手を選考する。
- (2) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

#### 【特記事項】

- ・ ワールドカップ第 4 戦終了時に各国のエントリー状況を確認し、エントリー可能範囲内の選手 (500m～1500m、女子 3000m 及び男子 5000m は 13～24 位、Ms は 19～30 位) を選考する場合がある。

## 第24回オリンピック冬季競技大会(2022/北京) 日本代表選手選考基準

オリンピック出場枠に関連するワールドカップにおける詳細は、国際スケート連盟(ISU)によって後日通知される予定である(8月頃)。これを受けて、本選考基準のうちISUから通知される内容に適合しない部分は変更される場合がある。

### 【決定の方法】

北京冬季オリンピックへの派遣選手選考は、以下の基準に基づき、強化部委員会が推薦し、選考委員会又は理事会で承認することによって決定する。

### 【派遣選手団の編成方針】

1. 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
2. 日本代表として十分な活躍が期待できる種目を優先的に選考する。
3. 行動規範を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

### 【出場に関する制限】

1. 以下の通り制限される。
  - ・ 国際スケート連盟(ISU)による第24回オリンピック冬季競技大会(2022/北京)参加資格付与制度によって決定される出場資格数
  - ・ ISUによるオリンピック特別参加資格のクラス分け(SOQC)
  - ・ ISUによる参加標準記録(後述)
  - ・ 北京冬季オリンピックに関する最新ISUコミュニケーションの詳細
  - ・ 日本オリンピック委員会(JOC)により日本スケート連盟に与えられる出場選手枠数
  - ・ 新型コロナウイルス(COVID-19)に関連する国や関係団体からの制限
2. 日本スケート連盟による派遣標準記録(後述)を設定し、派遣B標準記録以内の選手を派遣対象とする。

### 【特記事項】

- ・ 北京冬季オリンピックにおいて、日本の種目出場枠に空きが生じている場合、当該派遣選手団の監督の責任の下、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を追加でエントリーすることができる。この場合、当該種目の派遣標準記録以内であるかどうかは問わない。
- ・ 各種目(マススタート、チームパシュートを除く)の補欠は、選考時点のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、北京冬季オリンピックでの活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考する。
- ・ ISUの参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。
- ・ 北京冬季オリンピックへの派遣選手選考において、対象競技会にエントリーしている強化部委員がいた場合は、これを強化部委員会のメンバーから除外し、選考を行う。
- ・ 本選考基準において、JOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協

議による選考を定めている場合において意見の一致に至らなかった場合は、多数決の方法をもって決する。また、ここでの選考は、強化部委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。

- ・ 下記(1)～(3)の基準を満たした選手は、対象競技会（北京オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会）への参加を前提として選考されるものとする。ただし、怪我等のためやむを得ず対象競技会に参加できなかった場合は、その詳細な理由や北京冬季オリンピック時の状態を見通しつつ、選考対象とする場合がある。
  - ・ 男女チームパシュートおよび男女マススタートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、対象競技会以降におけるタイムトライアルの成績や練習状況などを総合的に検討し、選考時点のJOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、必要に応じて行うものとする。
  - ・ 各種目（マススタート、チームパシュートを除く）における正選手と補欠選手との入れ替えは、対象競技会以降におけるタイムトライアルの成績やドクターの意見などを総合的に検討し、選考時点のJOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、必要に応じて行うものとする。
  - ・ 代表選手の決定後、ケガや病気などによって大会への参加が困難であると判断された場合は、選考時点のJOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、派遣リザーブリスト登録者（後述）と入れ替える場合がある。その場合、強化スタッフに登録されたスポーツドクターの診断・見解を参考に検討する。
  - ・ 選考対象者が、新型コロナウイルス（COVID-19）による影響（感染や偽陽性判定、濃厚接触者認定、熱発による感染疑い、国際的な移動に伴う規制等による隔離や行動制限）により、本選考基準による適正な選考が著しく妨げられたと認められた場合は、強化部委員会の協議によって、下記選考基準の関連する部分に変更される場合がある。
  - ・ 日本代表として十分な活躍が期待できる種目を明らかにし、本選考に活用するため、以下の通りワールドカップ競技力を算出する。
    - ① 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000m及び男女チームパシュートにおいては、ワールドカップ第1～4戦のそれぞれについて（500mが2本ある場合は1本ごとに）、種目ごとにディビジョンAおよびBの全レースを対象としたタイムランキングを作成する。その後、出場選手ごとに（チームパシュートの場合は日本チームの）、ワールドカップ第1～4戦におけるタイムランキングの順位の中央値及び平均値を求め（算出方法詳細は下記参照）、いずれか良い方の値を当該種目におけるワールドカップ競技力とする。
    - ② 女子5000m、男子10000mにおいては、ワールドカップ第2戦におけるディビジョンAおよびBの全レースを対象としたタイムランキングにおける順位をワールドカップ競技力とする。
    - ③ 男女マススタートにおいては、ワールドカップ第1～4戦のポイントランキングの順位の中央値及び平均値を求め、いずれか良い方の値を当該種目におけるワールドカップ競技力とする。
- ※ それぞれの種目における中央値及び平均値の算出に使用するレース数（データ数）は下表の通りとし、各選手の好成績のレースから必要データ数の分だけ抽出することとする。なお、



ディビジョン A および B の全レースを対象としたタイムランキングの作成において、出場辞退・棄権（途中棄権含む）・失格はいずれも当該レース出場者における最下位（タイムを有する者の次の順位）として扱う。

	男女 500m	男女 1000m	男女 1500m	女子 3000m	男子 5000m	女子 5000m・ 男子 10000m	男女 マスタート	男女 チームパシュート
ワールドカップ第1～4戦実施レース数	8	4	4	3	3	1	3	3
中央値及び平均値算出使用レース数	5	3	3	2	2	1	2	2

※使用するデータ数が1つの場合はその値を、2つの場合はその平均値を中央値とする。

※例えば、ワールドカップ第1～4戦の男子1000mにおける各レースのタイムランキングが次の通りであった場合、中央値及び平均値は次の通り算出される。

	WC 第1戦	WC 第2戦	WC 第3戦	WC 第4戦	中央値	平均値
日本選手①	1	3	1	52	1	1.66
日本選手②	3	12	7	7	7	5.66
日本選手③	6	6	9	8	6	6.66

- ※ 補欠起用として出場したレースであっても、当該レースはワールドカップ競技力の算出対象とする。ただし、補欠起用による一時的なレース出場などのように、ワールドカップ競技力の算出に使用するレース数（データ数）が必要数を満たさなかった場合、「算出不可能」と解釈されるため、当該選手に対してワールドカップ競技力は付与しない。
- ※ 本選考基準でのタイムランキング作成においては、100分の1秒までのタイムを適用し、この定義の下に同タイムであった場合は同順位として扱う（100分の1秒表記でのタイムが同タイムであった場合にのみISUによって適用される1000分の1秒の値は本選考基準におけるタイムランキング作成では使用しない）。
- ※ ワールドカップ競技力が同じ値であった場合、ワールドカップ競技力として採用しなかった中央値又は平均値のいずれか一方の値を比較し、上位者を優先する。この値も同じであった場合は、ワールドカップ競技力算出に用いた各レースにおけるタイムランキングを比較し、より上位のランキングを有する者を優先する。なお、このランキング順位も同じであった場合は、選考時点のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、北京冬季オリンピックでの活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、優先順位を決定する。

#### 【派遣可能人数】

SOQCによる日本に配分された種目別出場枠により、以下の通り設定される。

- ・ チームパシュートの出場枠獲得に加え、すべての個人種目について最大出場枠を得た場合～男女各最大9名
  - ・ チームパシュートの出場枠獲得に加え、すべての個人種目についてそれぞれ1枠以上を得た場合～男女各最大8名
  - ・ それ以外～男女各最大7名
- ※ ただし、上記男女ごとの最大数は、「個人種目において、1種目に対して獲得した最大出場枠

数に、1 枠以上が配分された他の種目の種目総数を足した数を超えてはならない」という ISU ルールに従う。例えば上記の男女各最大 8 名の条件において、チームパシュートを含めて、すべての個人種目で最低 1 つの枠を獲得したとしても、種目別出場枠を、いずれかの種目で最大数となる 3 枠としなければ、派遣可能最大数は 8 名とはならない。

#### 【枠数】

SOQC により、以下の国別最大枠数が割り振られる。

男子：500m (3)、1000m (3)、1500m (3)、5000m (3)、10000m (2)、Ms (2)、TP (1)

女子：500m (3)、1000m (3)、1500m (3)、3000m (3)、5000m (2)、Ms (2)、TP (1)

※ ワールドカップ第 4 戦終了後の SOQC は、2021 年 12 月 24 日に ISU によって発表予定。

#### 【選考基準】

対象競技会：北京オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

- (1) 男女チームパシュートの正選手各 3 名は、当該年度にワールドカップに選考又は派遣（個人種目含む）された選手（派遣リザーブリスト登録者として選考された者を含む）、及び対象競技会の男女 1500m、女子 3000m、男子 5000m の各種目上位 6 位以内の成績を残した選手の中から、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、男女それぞれ補欠 1 名を、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長による同様の協議により、以下の通り選考する。
  - ① チームパシュートにおけるワールドカップ第 4 戦終了時のワールドカップ競技力が 3 位以内の場合、対象競技会にエントリーしている選手の中から、対象競技会の順位や前年度の競技成績を考慮し、選考方針を踏まえた総合的な検討によって、選考する場合がある。
  - ② 上記①によって選考に至らなかった場合、北京冬季オリンピックに別の種目で選考された選手の中から出場可能な選手を、選考する。ただし、北京冬季オリンピックに別の種目で選考された選手の中にチームパシュートの補欠として十分な力量を有している者がいないと判断された場合、以下の基準（6）の手順で選考する。
- (2) 男女マススタートの各派遣選手は、出場枠が 1 名だった場合、又は出場枠が 2 名だった場合の 1 名は、以下の基準（4）の手順で選考する。基準（4）で選考に至らなかった場合を含めた残りの正選手（2 名又は 1 名）は以下の基準（5）の手順で選考する。基準（5）で選考に至らなかった場合、残りの正選手及び補欠 1 名は、北京冬季オリンピックに別の種目で選考された選手の中から出場可能な選手を、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、北京冬季オリンピックでの活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。
- (3) 男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男女 5000m 及び男子 10000m について、ワールドカップ第 4 戦終了時のワールドカップ競技力が 3 位以内の者から、次の手順で選考する。
  - ① 男女それぞれの種目での日本が獲得した出場枠数（2021 年 12 月 24 日に ISU から通知される予定）が、3 枠のときは最大 2 名、2 枠のときは最大 1 名、1 枠のときは 1 名を、選考する。
  - ② 上記①によって選考された者を対象とし、以下の各場合の人数を、ワールドカップ競技力が上

位の者から順に選考する。

- i SOQC に従って決定された派遣可能人数が男女それぞれ 9 名の場合は、男女それぞれ最大 4 名の範囲内とする。
- ii SOQC に従って決定された派遣可能人数が男女それぞれ 8 名以下の場合は、男女それぞれ最大 3 名の範囲内とする。

(4) 残りの出場枠の派遣選手は、以下の手順で選考する。

① ワールドカップ競技力の割当

対象競技会の男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男女 5000m 及び男子 10000m 各種目の成績上位者（基準（3）で選考された者を除く）に対し、それぞれの種目のワールドカップ第 4 戦終了時のワールドカップ競技力（基準（3）で選考された者が獲得したものを除く）を、上位のものから、順次割り当てる。なお、男女マスタートについては、ワールドカップ第 4 戦終了時のワールドカップ競技力における順位の最上位者に対し、その者が獲得したワールドカップ競技力を割り当てる。

※例えば、男子の派遣可能人数が 8 名で、ワールドカップ第 4 戦終了時における、各選手のワールドカップ競技力が次の表 I の通りであって、基準（3）で選手 A が 500m、選手 B が 500m 及び 1000m の代表に選考され、対象競技会の成績が下記表 II となった場合、後記表 III の通り各選手にワールドカップ競技力が割り当てられる。

表 I

500m		1000m		1500m		5000m		10000m		マスタート	
1.8	選手 A	1.66	選手 B	4.5	選手 B	5	選手 G	4	選手 G	4	選手 G
3	選手 B	7.5	選手 A	5.66	選手 D	8	選手 H	15	選手 H		
10	選手 C	18	選手 C	17	選手 G	19	選手 C	19	選手 I		
15	選手 D	22	選手 D	30	選手 E	28	選手 I	27	選手 J		
27	選手 E	27	選手 E	36	選手 H	29.5	選手 J	30	選手 K		
36	選手 F	26	選手 F								

表 II

500m		1000m		1500m		5000m		10000m		マスタート	
1	選手 A	1	選手 L	1	選手 G	1	選手 G	1	選手 G		
2	選手 B	2	選手 B	2	選手 M	2	選手 H	2	選手 M		
3	選手 L	3	選手 A	3	選手 B	3	選手 M	3	選手 H		
4	選手 C	4	選手 C	4	選手 E	4	選手 I	4	選手 I		
5	選手 F	5	選手 E	5	選手 H	5	選手 J	5	選手 N		
6	選手 D	6	選手 D	6	選手 N	6	選手 N	6	選手 O		

表Ⅲ

500m		1000m		1500m		5000m		10000m		マススタート	
1.8	選手 A	1.66	選手 B	4.5	選手 G	5	選手 G	4	選手 G	4	選手 G
3	選手 B	7.5	選手 L	5.66	選手 M	8	選手 H	15	選手 M		
10	選手 L	18	選手 A	17	選手 B	19	選手 M	19	選手 H		
15	選手 C	22	選手 C	30	選手 E	28	選手 I	27	選手 I		
27	選手 F	27	選手 E	36	選手 H	29.5	選手 J	30	選手 N		
36	選手 D	26	選手 D								

## ② 選考手順

男女それぞれの派遣可能人数から、基準（1）及び（3）で派遣が確定した選手数を控除した残りの人数に達するまで、次に記載した事項に該当する者を、記載した順序を優先順位として選考するものとし、同一事項に該当する者が複数いた場合には、上記①で割り当てられたワールドカップ競技力が上位の者を優先する。

- i 北京オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会において派遣 SS 標準タイムを上回った者
- ii 基準（3）において、ワールドカップ第 4 戦終了時のワールドカップ競技力が 3 位以内となったものの、最大数の制限を超えたためにここでの選考から漏れた者
- iii 北京オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会において派遣 S 標準タイムを上回った者
- iv SOQC のワールドカップポイントランキングに名を連ね、日本の種目別出場枠を獲得した者
- v SOQC のタイムランキングに名を連ね、日本の種目別出場枠を獲得した者
- vi その他の者

※ 上記の派遣 SS 又は S 標準タイムは、当該種目のものを対象とする。なお、マススタートに関しては、男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男女 5000m 及び男子 10000m のいずれかの種目で上回っていればこれを適用する。

※ SOQC における種目別出場枠獲得者は、男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m 及び男子 5000m は最大 3 名、女子 5000m 及び男子 10000m は最大 2 名。

- (5) 基準（4）までで派遣可能人数に至らなかった場合、当該年度にワールドカップに選考又は派遣された選手（派遣リザーブリスト登録者として選考された者を含む）、及び対象競技会の各種目上位 6 位以内の成績を残した選手の中から、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、北京冬季オリンピックでの活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、枠数に至るまで選考する。
- (6) 男女それぞれのチームパシュートの補欠について、基準（1）②において選考に至らなかった場合、基準（4）及び（5）の手順において最後の派遣可能枠を獲得した者に替え、新たに選出したチームパシュートの補欠を日本代表選手団に選考する場合がある。その場合の補欠は、当

該年度にワールドカップに選考又は派遣された選手（派遣リザーブリスト登録者として選考された者を含む）、及び対象競技会の各種目上位 6 位以内の成績を残した選手の中から、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、日本代表選手団の構成について総合的な検討を加えながら、選考する。

- (7) 当該年度にワールドカップに選考又は派遣された選手（派遣リザーブリスト登録者として選考された者を含む）、及び対象競技会の各種目上位 6 位以内の成績を残した選手の中から、当該派遣選手団外の選手男女各最大 5 名を、選考時点の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、北京冬季オリンピックでの活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、派遣リザーブリスト登録者として選考する。
- (8) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【ISU ワールドカップ参加標準記録】

女子			男子		
	カガリー ソルトレークジエー ウルムチ	その他		カガリー ソルトレークジエー ウルムチ	その他
500m	39,50	40,00	500m	35,70	36,20
1000m	1.19,00	1.20,00	1000m	1.11,00	1.12,00
1500m	2.00,50	2.02,00	1500m	1.49,00	1.50,50
3000m	4.19,00	4.22,00	5000m	6.40,00	6.45,00
5000m	7.23,00 又は 4.11,00(3000m)	7.33,00 又は 4.14,00(3000m)	10000m	13.30,00 又は 6.28,00(5000m)	13.40,00 又は 6.33,00(5000m)

※ 対象競技会は、2020年7月1日以降に開催されたすべてのISUメンバーに参加資格が与えられている国際競技会（ISUルール第107条4項に従う）、全日本スピードスケート距離別選手権大会、全日本スピードスケート選手権大会、北京オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会、全日本ジュニアスピードスケート選手権大会とする。

※ マススタート、チームパシュート及びマススタートにエントリーするためには、少なくとも1つの参加標準記録を達成していなければならない。

※ 上記の記録は2019/2020シーズンのものであり、2021/2022シーズン（今シーズン）のものはISUによって変更される場合がある。

【オリンピック参加標準記録】

女子		男子	
500m	39,50	500m	35,70
1000m	1.18,00	1000m	1.10,50
1500m	1.59,50	1500m	1.48,00
3000m	4.12,00	5000m	6.30,00
5000m	7.20,00 又は 4.08,00(3000m)	10000m	13.30,00 又は 6.25,00(5000m)
Ms*	2.10,00(1500m)	Ms*	1.57,50(1500m)

※ 上記標準記録は2021年7月1日から2022年1月16日の期間に達成されなければならない。

※ 対象競技会は、ISU選手権大会、ワールドカップ、すべてのISUメンバーに参加資格が与えられている国際競技会（ISUルール第107条4項に従う）、国内選手権大会（全日本スピードスケート距離別選手権大会、北京オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会）等の、定められている大会とする。

※ マススタート及びチームパシュートにエントリーするためには、少なくとも1つの参加標準記録を達成していなければならない。

※ 上記「Ms\*」はマススタートのための特別の参加標準記録となる。500m～10000m までの上記参加標準記録を達成していなかったとしても、男女それぞれ最大1名のみ、この特別の参加標準記録を達成していればエントリーすることができる。

【派遣標準記録】

女子					男子				
	SS 標準	S 標準	A 標準	B 標準		SS 標準	S 標準	A 標準	B 標準
500m	37,56	37,94	38,34	39,81	500m	34,68	34,81	35,06	35,95
1000m	1.14,57	1.15,26	1.16,17	1.19,55	1000m	1.08,46	1.08,91	1.09,55	1.11,18
1500m	1.55,75	1.56,48	1.57,79	2.02,80	1500m	1.45,28	1.45,93	1.46,95	1.50,54
3000m	4.02,88	4.04,15	4.07,18	4.19,12	5000m	6.15,46	6.19,28	6.21,97	6.37,19
5000m	6.58,91	7.00,84	7.09,21	7.24,69 又は 4.19,12 (3000m)	10000m	13.01,79	13.06,71	13.14,78	13.37,65 又は 6.37,19 (5000m)

※ 対象競技会は、2021年7月1日以降に開催された日本スケート連盟主催大会とする。なお、各国際競技会の選考基準において対象競技会が指定されている場合は、その内容に従う。

※ 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mについては、2018年度及び2019年度WC（カルガリー・ソルトレークシティー、最終戦以外）の各種目1番目のタイムの平均値をSS標準、3番目のタイムの平均値をS標準、各種目8番目のタイムの平均値をA標準、各種目35番目のタイムの平均値をB標準とした。また、女子5000m、男子10000mについては、2017年度WCスタヴァンゲル大会、2018年度WCトマシヨフマゾウィエツキ大会及び2019年度ヌルスルタン大会の各種目1番目のタイムの平均値をSS標準、3番目のタイムの平均値をS標準、各種目8番目のタイムをA標準、各種目26番目のタイム又は女子3000m、男子5000m各種目B標準の記録を、B標準とした。

※ マススタートの派遣標準記録は1500m～10000mまでのいずれか1つを対象とする。